



社会福祉法人 長野県社会福祉協議会

「福祉だより信州」は共同募金の
配分金で発行されています。



昭和27年1月11日
第三種郵便物認可第752号
平成30年1月25日発行
(毎月25日発行)

福祉だより 信州



長野県社会福祉協議会
ふつころ
公民キャラクター

CONTENTS

今月のフクシくん	2
県社協からのイチオシ情報	4
公益事業の推進に向けて	6
WEB INFORMATION	7
住民主体の福祉活動	8

須坂市出身。高校3年時に外部講師による進路説明会でリハビリ専門学校の教員の講話に興味をもち、同校に進学。2年間通った末に中退し、学んだ知識を生かして介護職に就こうと、信州医療福祉専門学校に再入学。平成25年卒業し、介護福祉士を取得。同年4月より現職。

利用者や職員とコミュニケーションを図り、信頼される職員をめざして



今月のフクシくん

毎号福祉の現場で活躍する若手スタッフをご紹介します。

社会福祉法人ジェイエー長野会
特別養護老人ホームりんごの郷
介護福祉士

川久保 肇さん

webでもご覧いただけます



利

利用者の尊厳を大切に、穏やかな生活を支援する特養「りんごの郷」。例えば「スペシャルデイ」とよばれる企画では、なかなか外出できない利用者が家族の協力も得ながら出かけたリ、「ケーキが食べたい」という利用者には好みのケーキを用意して家族と食べてもらい、記念撮影をするなど、利用者の希望を叶えるイベントも実施しています。そのためにも職員同士が協力し、日頃から利用者の思いや要望を気にかけています。

そうしたなかで働くのが、入職5年目の介護福祉士、川久保肇さん。リハビリの専門学校を経て、その知識を介護職で生かそうと介護の専門学校に

再入学し、明るく清潔感が漂うこの施設に惹かれ入職を決めました。現在は利用者や職員一人ひとりと積極的にコミュニケーションを図り、「わからないことは先輩職員に聞いて自分でもしっかりと調べている」と周囲から評価を得ています。そんな川久保さんのやりがいは、利用者やご家族から「ありがとう」と言われること。

「印象に残っているのは看取りの時です。頻繁にご家族が面会に来ていたとある利用者さんが亡くなり、涙を流すぐご家族から感謝の言葉をいただいた時は特に胸に迫るものがありました」もちろん、利用者それぞれに違う考えをもち、時には職員と意見が食い

違ふこともありませんが、川久保さんはできるだけ期待に添えるよう相手の立場で考え、要望の実現が難しい時は自分ならどうするかを提案もしています。また、365日24時間体制でケアをする特養は早番から夜勤までシフト勤務で大変ながらも、ジムで体を鍛え、体調管理やケガをしない体づくりにも努めています。

「人と話すことが好きなので、利用者さんとも職員とも楽しい人間関係が築けるこの職場は働きがいがあります。これからもっと多くの利用者さんと話して状態を把握し、誰からも話しかけられ信頼される職員をめざし頑張ります」



人に携わる仕事でリハビリの知識を生かしたいと思い、祖父母と同居していたこともあって、介護福祉士になった川久保さん。体を動かすことが好きで、仕事でもプライベートのジム通いでも常に動く今は性に合っていると話します。職場は若手職員が多く活躍し、20代の職員も多数。何か問題があった場合は職員会議を開いて対策を検討しています。

優しさに加え、相手の立場で物事を考えることが大切

1日1回、利用者さんや職員を笑顔にさせるやりがい

同じタイプの集まりではなく利用者も職員も個性があって面白い

この仕事に向いているのは、優しさだけでなく相手の立場も理解したうえで対応ができる人。そのためにも、将来は自分も介護や支援が必要になるかもしれないということを念頭に置き、仕事をするのが大事だと感じています。そこで、もし福祉の仕事に興味があるなら、実際に施設に見学に行って利用者さんの生活を知ることをおすすめします。また、私も経験がありますが、ボランティア体験も有意義だと感じています。



さまざまな施設で介護職を経験し、この道20年。当施設はご家族との連携が非常に取れていると感じています。そうしたなかで1日1回は皆を笑わせることが私の生きがい。新入職員にもこの仕事を好きになってもらいたい思いで、楽しい職場づくりをめざしています。そこで、学生の方も当施設が気になったら、いつでも見学やお祭りなどのイベントに来てもらえるとうれしいですね。

関谷 泉さん
(介護福祉士)



大学時代に教員の資格取得をめざし、実習の一環として福祉施設を訪問。その時に初めて介護職を知り、純粋に「いいな」と感じました。そこで介護の専門学校に再入学し、今に至っています。心がけているのは、楽しみながら仕事をするということ。そうしたなかで、自分も利用者さんも日々変化があり、うまくいく日もあればかない日もあることがこの仕事の面白さだと実感しています。

込山 敬さん
(介護福祉士)

福祉職員生涯研修を活用し、福祉人材の定着促進を

「福祉・介護職員のキャリアアップと目標を描く」

1 福祉介護職員の定着が課題

福祉・介護ニーズが多様化するとともに、その業務量も増え続けています。社会全体が深刻な人手不足の中、高い意欲をもって福祉・介護の世界に入ってきた職員をその志を持ったまま福祉・介護の世界に定着させていくことは喫緊の課題です。

(公財)介護労働安定センターが介護労働者を対象に実施した平成28年度「介護労働実態調査」(グラフ1)をみると、福祉・介護の仕事を選んだ理由として、「働きたいのある仕事だから」と思ったから(52.4%)、「資格・技能が活かせるから」(38.3%)、「人や社会の役に立ちたいから」(31.5%)と、多くの人が福祉・介護の世界に希望や

高いモチベーションを持って入ってきていることが見えてきます。

しかし、同じ調査で離職した理由を見ると、「職場の人間関係に問題があったため」(23.9%)、「法人や施設・事業所の理念や運営のあり方に不満があったため」(18.6%)のように、事業所・経営者のマネジメントに起因する理由が上位になっています。

また、「自分の将来の見込みが立たなかったため」(17.7%)という理由も、高い値になっています(回答は全て複数回答)。

別の調査では、医療・福祉の分野に就職した新卒者のうち大卒で37.6%、高卒では49.6%の人が就職後3年以内に離職しています。(厚生労働省「新規学卒就職者の離職状況(平成26年3月卒業者の状況)」)

2 福祉職員生涯研修のねらい

このような傾向は以前から続いています。

平成20年、厚生労働省が福祉・介護人材の定着を目指し新たに示した福祉人材確保指針を受け、全国社会福祉協議会・福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程運営委員会では、それまで実施していた福祉職員生涯研修のカリキュラムを見直し、新しい福祉職員生涯研修のプログラムを作成しました。この研修プログラムには、大きく2つの目的があります。

①福祉・介護職員が、自らのキャリアアップの道筋(キャリアパス)を描き、それぞれのキャリアパスの段階

に応じて共通に求められる能力を段階的・体系的に習得することを支援する。

②各法人、事業所が主体的に職員のキャリアパスを整備し、これに沿った職員育成施策を確立・実施することを支援する。

〔「全社協「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト」から」〕

長野県社会福祉協議会では、平成26年度からこの研修プログラムに基づき、事業種別共通で新任・中堅・リーダー・管理職員の4コースの生涯研修をスタートさせ、この4年間で延べ約4,000人が受講しています。

3 福祉職員生涯研修の積極的な活用を

福祉職員のスキルアップには、そのサービスの理念や倫理に基づいた専門的技術・知識を高める専門性と、組織の一員として求められる役割、行動ができるようになる組織性の2つが求められます。こうした求められる知識・能力・役割をどのように身につけていくかの道筋を示すキャリアパスを構築・運用することにより、「自分の将来

の見込みが立たなかったため」やマネジメントに起因する離職理由を改善できると期待されます。

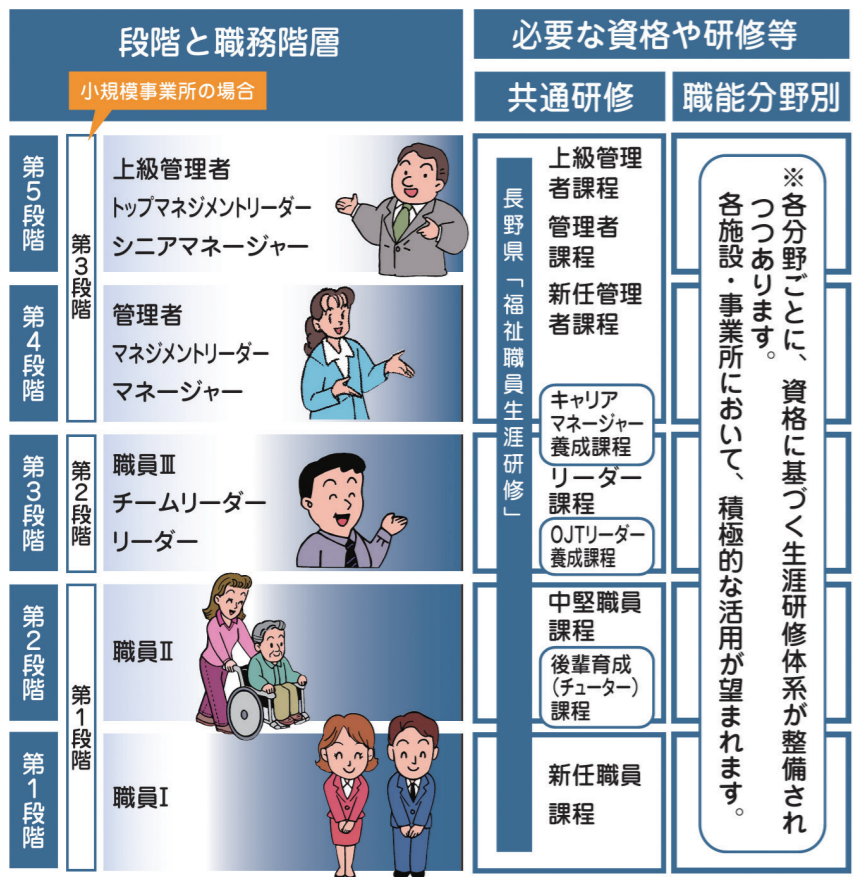
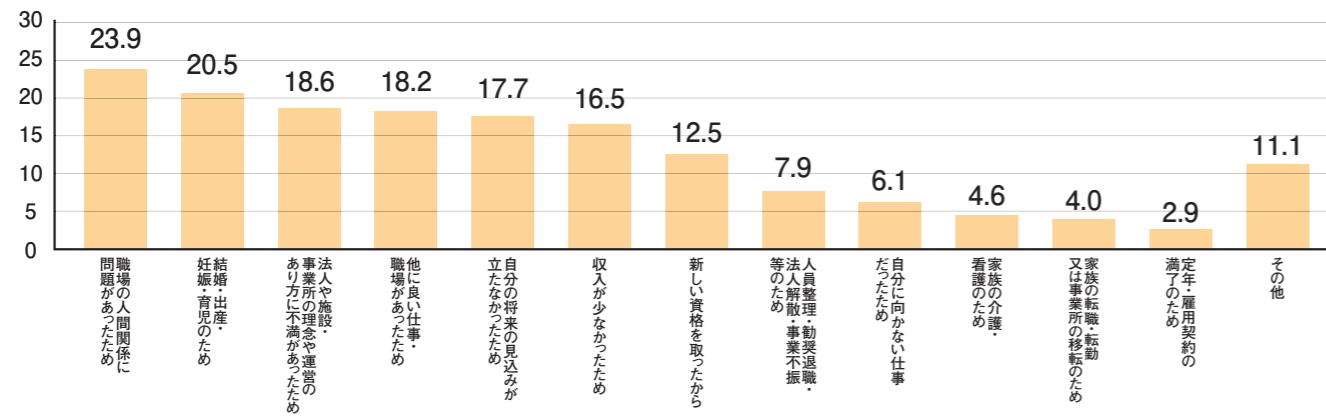
また、キャリアパスの構築・人材育成は、法人経営者や事業所管理者に大きな責任があります。改めて、事業所の理念を共有し、キャリアパスを構築していくためにも新任や中堅職員だけでなく、リーダーや管理職員の方の積極的な活用が望まれます。

このほか、全社協が作成したプログラム以外にも、長野県社協では独自プログラムとして、人材育成を中核テーマとしたキャリアマネージャー養成課程、OJTリーダー養成課程、若手職員が後輩指導のあり方を学ぶ後輩育成(チューター)課程の研修も実施しています。また、保育士や小規模事業所職員を対象とした研修も実施しているため、人材育成や定着促進のため、多

くの事業所の職員に受講していただくことをお待ちしております。

※平成30年度の福祉職員生涯研修の日程・会場等については、3月末に長野県内の全福祉事業所にお送りする「福祉研修ガイド2018」きりあねっと」に掲載しておりますので、こちらをご覧ください。

介護関係の仕事を辞めた理由 (平成28年度「介護労働実態調査」から作成「公財」介護労働安定センター) (グラフ1)



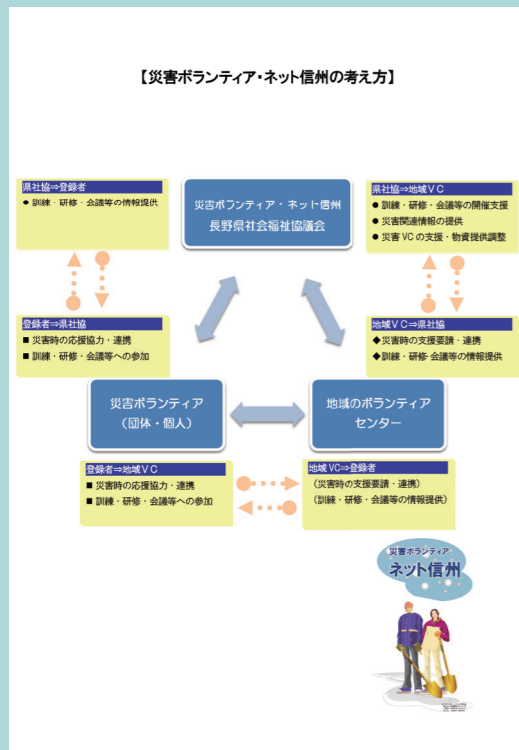
福祉職員生涯研修・キャリアパスのイメージ



福祉職員生涯研修【新任管理者課程】(平成29年6月29日)

WEB INFORMATION

災害ボランティア・ネット信州にご登録ください。



長野県内でも地震や災害が相次いで発生するなかで、多様な経験を持つボランティアの力が被災地の復興の大きな力となっています。

長野県社会福祉協議会では、災害ボランティアの登録制度により、日頃から研修や訓練などで顔の見える関係づくりに取り組み、災害時に真に被災地の力になれるボランティア・チームづくりを進めるため、災害ボランティア・ネット信州を運営しています。

登録者には、災害ボランティアに係る研修情報等を提供いたしますので、ぜひ、登録制度の活用をお願いします。

http://www.nsyakyo.or.jp/modules/vola_regist/

連絡先 / 長野県社会福祉協議会
 地域福祉部 ボランティア振興グループ
 TEL 026-226-1882
 E-mail vcenter@nsyakyo.or.jp



2018平昌パラリンピックを目指して！ パラアイスホッケー代表候補 県勢8人が選出されました！！

日本アイスホッケー協会は、1月13日、3月に開幕する平昌パラリンピックの日本代表候補選手17人を発表しました。そのうち長野県勢は8人が選出されており、ディフェンダーを務める中村稔幸さん(千曲市社協 介護サービス係長、右写真)も選出されています。

1/7(日)～13(土)、長野オリンピック・パラリンピック20周年記念事業の一環として2018ジャパンパラアイスホッケーチャンピオンシップが長野市のビッグハットで開催されました。この大会は、平昌パラリンピック出場国が参加する国際大会で、日本代表も平昌に向け、本番さながらの熱い戦いを繰り広げました。結果は残念ながら5戦全敗と課題が残る結果となってしまいましたが、平昌パラリンピックに向けて、悔いのない活躍を期待しましょう。



日本代表候補、中村稔幸さん



「氷上の格闘技」と呼ばれているだけあり敵チームの選手と激しい激突が多い



長野県協の公式キャラクター「ふっころ」も応援に駆けつけました！

平成29年度 社会福祉施設 総合損害補償 **しせつの損害補償** インターネットで保険料試算できます

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の **事故・紛争円満解決のために！**

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

賠償事故	基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
うち現金補償限度額(期間中)	20万円	20万円
人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
お見舞い等		
被害者対応費用(1名につき)	死亡10万円 後遺障害0.3-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)	死亡10万円 後遺障害0.3-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)
傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5-7万円 通院時1-3.5万円

◆29年度新設 看護師の賠償責任補償(プラン1-①オプション2)

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763

(SJK16-16919 2017.2.3作成)

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!! 平成29年度 **全国200万人加入!!**

ボランティア活動保険

http://www.fukushihoken.co.jp

保険金額	プラン	Aプラン	Bプラン
死亡保険金		1,320万円	1,800万円
後遺障害保険金		1,320万円(限度額)	1,800万円(限度額)
入院保険金日額		6,500円	10,000円
手術保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円
	外来の手術	32,500円	50,000円
通院保険金日額		4,000円	6,000円
特定感染症の補償		上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ	
葬祭費用保険金(特定感染症)		300万円(限度額)	
賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)	

年間保険料(1名あたり)	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		350円	510円
天災タイプ(※)	(基本タイプ+地震・噴火・津波)	500円	710円

ケガの補償: 死亡、後遺障害、入院、手術、通院、特定感染症の補償、葬祭費用、賠償責任

保険金をお支払いする主な例: 転倒、自転車事故、火傷、腰痛、骨折

ボランティア行事用保険 送迎サービス補償 福祉サービス総合補償

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

(SJK16-16921 2017.2.3作成)

住民主体の福祉活動 地域づくりレポート

新たなつながりづくりの 場ができました!



上：名前には「みんなが集まれる場所」という想いがこめられています。

下：代表の江藤憲史さん



大町市八坂地区に築170年の古民家を改装したコミュニティカフェ「大木葉(おーきーば)」が11月にプレオープンしました。代表の江藤憲史さんにお話を伺いました。東日本大震災後に八坂地区に移住した江藤さんは、いろいろな人とつながりを作る必要を強く感じるようになったと話します。地域のひと話す中で、みんなが集まりつながりを作れる場所をつくりたいと思い、準備をすすめてきました。

今現在も、地域のママたちとの子育て交流サロンやそばカフェなどの準備をすすめています。また、工具や農機具などを共同利用することで、新たなつながりづくりを考えています。

江藤さんのお話をお聞きし、地域づくりへの思いを知ることができ、春のオープンが待ち遠しく感じました。

連絡先／大町市八坂908 コミュニティカフェ 大木葉 江藤憲史
TEL 080-4349-1897

今月の逸品

手織り製品で毎日を楽しく!

作業の一つとして、手織りの作業を取り入れています。「感性のまま、好きに好きに織る」さを織り、縦糸と横糸の出会いによる色のマジックをご堪能いただける製品ばかりです。

社会福祉法人 夢工房福祉会
ワークスペース夢工房
須坂市大字須坂 1485-11
TEL 026-248-3002 FAX 026-248-3045



webでも
ご覧になれます



情報掲示板

県社協からのお知らせ

- 第3回福祉の職場説明会・就職面接会
日時・会場／松本会場 平成30年3月1日(木) 13時～16時
ホテルブエナビスタグランデ(松本市)
長野会場 平成30年3月9日(金) 13時～16時
メルパルク NAGANO(長野市)
問合せ先／社会福祉法人長野県社会福祉協議会福祉人材センター
TEL / 026-226-7330
- 「福祉だより信州」1月号(29年12月25日発行)
8ページ「今月の逸品」に誤りがありました。
正しくは
名称「味遊(ゆみ)カフェ」
住所「〒386-0011 上田市中央北2-7-3」
です。大変申し訳ございません。

新着助成金情報

- 東日本大震災復興支援「JT NPO 応援プロジェクト」
問い合わせ先／認定特定非営利活動法人 日本 NPO センター
応募締切／平成30年2月28日
TEL / 03-3510-0855
URL / <https://www.jti.co.jp/csr/contribution/support/npo-koubo/invite/index.html>
- 第7回杉浦地域医療振興助成(研究分野・活動分野)
問い合わせ先／公益財団法人杉浦記念財団
応募締切／平成30年2月28日
TEL / 0562-45-2731
URL / <http://sugi-zaidan.jp/>

- ご感想、お問合せ、掲載希望等は下記へお寄せください。

webでも
ご覧になれます

長野県社会福祉協議会
総務企画部 総務グループ
TEL 026-228-4244 FAX 026-228-0130
E-mail soumu@nsyakyo.or.jp



ざわめくアート



『にじ』 粟倉 涼真(あわくら りょうま) 20歳 松本市在住

強い筆圧でクレヨンがグイグイと走る。すごいスピードだ。作者は「にじ カク」と言い、次々とクレヨンの色を替えて塗りつぶしていく。描き終わると自分のバッグに収めて家に持って帰る。取材者が「それ、すごく素晴らしいので、貸してほしいんだけど。」と言っても「ダメ!」と言われてしまう。ようやく了解してもらって写真だけ取らせてもらった。床一面にきれいな虹が広がっていた。